Dr.からのアドバイス

# こんなとき どうしたら…

## C型肝炎のインターフェロン治療について

インターフェロンとは、ウイルスに感染すると身体の中で自分自身が作る物質であり、ウイルスを排除したり、免疫を高めたりする働きがあります。そのためC型肝炎の患者さんに投与すると、C型肝炎ウイルスを減らし、うまくいけば血液中から消すことができます。

### どのような時にインターフェロン（以下ＩＦＮ）治療を行なうのですか？

**A** 主に長期間ウイルスに感染していると思われる人(ウイルスのキャリア)が対象ですが、その中でも慢性肝炎を起こしており、このままだと肝硬変になりやすい、あるいは肝硬変でもまだ治る可能性があると思われるような人が対象です。具体的には、肝機能に異常を認める人や、肝細胞がんができやすいと考えられる人たちで、できれば若いうちに早くウイルスを排除しておいた方が安心です。最近では、肝機能が基準値内でも肝生検（肝臓の組織検査）で慢性肝炎と診断された場合には、ＩＦＮ治療を受けた方がよいとも言われています。

### どのように投与するのですか？

**A** ウイルスの種類と量によって治りやすさが違うので、患者さん一人一人で投与法が異なりますが、一般的に投与期間は２４週間から４８週間が基本です。ウイルス量が多ければ、ＩＦＮの注射とリバビリンという飲み薬を併用しますが、量が少なければＩＦＮ単独で治療します。投与開始時は、通常１～２週間程度入院して、どのような副作用が出るかをチェックし、その対策を覚えていただきます。その後、病院と近くのかかりつけ医とが協力して治療する病診連携もよく行なわれています。投与期間が長いので、なるべく日常生活に影響が出ないように注意しています。

### どのような種類、副作用があるのですか？

**A** ＩＦＮは、大きくαとβという２種類がありますが、それぞれ投与法や副作用が異なります。αは筋肉や皮下に注射をしますし、βは静脈に注射をします。また、αにはペグインターフェロンといって一週間に一度の投与で良いものがあり、最近ではこれが主流になっています。初期の副作用では、発熱、だるさ、食欲不振、筋肉痛、関節痛、頭痛などの感冒様症状といわれるものので、ほとんど全員に現れます。その後に皮疹、不眠、うつ症状、間質性肺炎、眼底出血、甲状腺機能異常などが出ることもありますが、これらには個人差があります。また、白血球や血小板が低下することがありますが、これも個人差がありますので、主治医とよく相談して下さい。脱毛やうつ症状はβの方が出にくいので、最近では使い分けも行なわれています。

### 高価な薬であると聞きますが？

**A** 確かに高価ですので平成２０年度から厚生労働省の事業で、肝炎インターフェロン治療医療費助成制度が始まりました。世帯の市町村民税年額別に自己負担限度額が決められており、経済的負担が軽減されて治療を受けやすくなっています。平成２２年度はさらに助成が拡大される可能性もありますので、是非主治医とよく相談されるようお勧めいたします。

## 今月のドクター

岐阜市民病院　院長（消化器内科）
冨田　栄一　氏
（とみた　えいいち）

昭和48年京都大学卒業。岐阜大学第一内科助教授を経て、平成元年より岐阜市民病院消化器内科部長。平成17年より同院長。専門は、肝炎・肝がんの診断と治療。日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医。